

# 石巻市内で活動している社会福祉法人のご紹介

## 第10回インタビュー

### 社会福祉法人向陽会

平成28年4月から改正社会福祉法により、社会福祉法人による「地域における公益的な取組（社会貢献事業）」の実施が法人の責務として位置づけられました。

この取組は、次の3つの要件をすべて満たすことが必要となります。

- (1) 社会福祉事業または公益事業を行うに当たって提供される「福祉サービス」であること
- (2) 「日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者」に対する福祉サービスであること
- (3) 無料または低額な料金で提供されること

具体例としては

- ・夏祭り等、イベントの開催による住民間のつながりの再構築
- ・働き手が少ない商店街との連携による就労支援
- ・公共交通機関がない地域での移動支援や買い物送迎支援
- ・災害支援ネットワークによる避難所支援
- ・刑余者の自立支援に向けた自立準備ホームの登録

などが挙げられます。

石巻市内にはたくさんの社会福祉法人がありますので、実際にどんな社会貢献事業に取り組んでいるのか、順番にご紹介していきたいと思っております。

今回は「社会福祉法人向陽会」さんをご紹介します。

インタビューにお答えくださった方は、事務局長の渡部喬子さんです。

### 社会福祉法人向陽会

- 法人所在地 石巻市北村字下田三42番地
- 電話番号 0225-73-5211
- ウェブサイト <http://koyo-kai.jp>
- 設立年月日 平成22年5月21日
- 事業 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、短期入所生活介護、訪問介護、通所介護、居宅介護支援事業、有料老人ホーム
- 施設・事業所 万葉苑、万葉苑わくや、ケアセンター万葉苑、デイサービスセンター万葉苑、デイサービスセンター万葉苑サテライト、有料老人ホーム万葉苑



#### ■社会貢献事業

##### (1) 地域との様々な交流の場

地域のサロン会の方や、保育所、小学校との交流、地域のお祭りへの協力、宮城いきいき学園の卒業生の地域活動支援のほか、毎年施設主催の夏まつりには地域の方を招き、地域住民との交流を図ってきましたが、コロナ禍の影響で交流ができない状況が続いています。

そのような中、敷地内には紫陽花や菜の花など四季折々の花々を楽しめる庭園を整備し、地域の方に自由に散歩やお花見を楽しんでもらっています。

その他、施設内には地域のつどいの場として地域交流スペース（多目的ホール）を設置しています。

現在は利用を制限していますが、コロナ禍が落ち着いたら地域の集まりの場として開放する予定です。

##### (2) 多様な実習の受け入れ、働く場の提供

地域の中学校や特別支援学校の職場体験や職場見学の受け入れを行っています。実際に介護の現場に触れることで興味を持ってもらい、将来を担う人材となってくれれば嬉しいです。

多様な人材の受け入れとして、食事介助や入浴介助などの業務ごとに人材を募集（求人）し、シニア世代や子育て中の方へも働きやすい場の提供や、施設付近に宿泊施設を整備し海外から来ている特定技能実習生を受け入れ、安心して生活と仕事ができる環境づくりを行っています。

##### (3) 福祉避難所として

万葉苑の開所直前に東日本大震災が発生しました。行政機関との協議を経て、避難所での生活が困難な高齢者等を受け入れる福祉避難所として施設運営をスタートしました。そのような経緯もあり、現在は福祉避難所の指定を受け、災害時の受け入れ態勢を行っています。

—今回は介護保険サービスを中心に高齢者福祉を担う社会福祉法人として、向陽会さんをご紹介します。向陽会さんで行っている社会貢献事業や介護保険サービス以外の取り組みについてお聞かせください。



左が法人事務局長渡部喬子さん

**渡部：**先日、宮城いきいき学園の卒業生の会から、万葉苑周辺の環境美化（草取り）のボランティア活動をしたいという申し出があって、来てもらうことになっています。その際、メンバーの方々が「高齢だから自分たちの将来のことを知りたいから」ということで介護施設の説明を受けたいという声もあったので、施設について紹介をさせてもらうこととなっています。

ただ、コロナ禍が続いているので、利用者の方との交流ということはなかなかできませんが、地域の方からボランティア活動をしたいという声もいただいています。

また、施設として、施設の夏祭りにはチラシを小学校や地域の方に渡し、参加

してもらっていましたが、施設の平成24年から続けていましたが、コロナの影響で地域の方を招いての実施はできていない状況です。

—これまでの取材でも、夏祭りができないことに対し、みなさんコロナへの憂いがあるようです。

**渡部：**夏祭りもですけど、4月には旭山にある朝日山計仙麻神社のお祭りがあり、おみこしさんが北村地区を回って、一心苑さんを回って、うちの施設まで来てくれて、地元の入所者も増えているためとても喜んでくれています。

—先程、小学校という話がありましたが、児童と施設との交流はあるのでしょうか。

**渡部：**実は交流を始めることで話を進めていたのですが、コロナ禍によって実現できていません。しかし、去年の敬老の日あたりに、北村小学校から子どもたちの活動の様子をまとめたDVDをいただき、入居者の方に見ていただきました。また、鹿又地区にあるメロン保育園さんとは以前から交流をさせていただいており、秋頃に来てくれて、お遊戯会で発表した演技を披露してくれていました。でも、ほかの法人さんと比較してまだまだ繋がりが少ないと感じています。

—福祉や介護の実習受け入れについてはいかがでしょうか。

**渡部：**コロナの影響もあり介護の分野でも技能実習から特定技能へ転換される方も多くいて、当施設でも特定技能（※1）

実習生として昨年から働いてもらっています。最近、法人の敷地内に居住施設を設け、そこで生活しながら働いてもらっています。

また、河南西中学校の職場体験は依頼があればその都度受け入れていますし、特別支援学校からの職場訪問の受け入れも行っており、将来の福祉人材の育成に繋がればと思っています。福祉の現場は、学歴を問わないところもある業界なので、学校に馴染めなかった方や障がいがある方でも担えることもあると思います。以前は、この施設にも特別支援学校を卒業した方が清掃業務を担ってくれていましたし、もちろん介護業務を希望された方もおりました。涌谷町にある別施設では、卒業後、入職から7年目、8年目の方もいます。しかし、専門学校の生徒数が減っており、実習の受け入れも減ってきているのが現状です。



特別養護老人ホーム万葉苑

——人材確保はこの業界の課題でもありますね。

**渡部：**実は介護施設だから介護業務を全

部一人でやらなくてはならないという時代ではなくなり、業務を分けて分業制になっています。入居者さんに直接身体介護をするのは介護資格を持った職員が行い、間接的な業務に関しては介護補助員であったり、施設の清掃もあるのでそちらに従事したりと役割分担ができています。今は介護職だけでの人材確保が難しい時代になっていて、部分、部分で雇用して人員を確保していく方法を取っています。また、介護職でもフルタイムで勤務する人以外にも、例えば介護補助員という形で入浴介助のみを担っている子育て中の介護経験者の方や、夕食時の2時間だけの食事介助や短時間の清掃業務を担ってくれている男性高齢者などもあります。その結果、フルタイムの職員が入居者さんへの直接ケアに専念できる環境にもつながっています。

——男性高齢者の短時間就労とありましたが、介護保険制度では介護予防に力を入れており、サロンやサークル活動だけではなく就労としての活躍の場も当てはまります。サロン参加やボランティア活動に限定せず、働きたいと思う高齢者のニーズをキャッチした取り組みだと思っています。

**渡部：**宮城県長寿社会政策課でも「介護助手普及啓発事業」(※2)というものがあり、これまで介護職員が行ってきた掃除や配膳などの周辺業務を担ってもらう仕組みがあります。高齢者雇用をしなくてはならないという法人の使命もあり、

この事業を活かして雇用しています。

ご本人に介護分野に抵抗がなければ介護の経験有無は関係ありません。若いスタッフも多いので、柔軟に吸収してもらえれば大丈夫だと思います。

ひと昔前だとシニアの方の活躍の場として「仕事」を選ぶとしたら、シルバー人材センターへの登録というイメージがあったと思うのですが、今は様々な働く選択肢がありますね。

人材を確保することはとても難しく、どうしたら確保できるかを考えた結果、働きやすい環境にもなったのかもしれない。

少し話は戻りますが、以前、特別支援学校から、障がい者向けのデイサービスをやってもらえないかといった相談がありました。当時は、余裕もなく、断らざるを得なかったのですが、障がい者の就労支援事業所はいくつかあるものの、重度障がいの方の居場所となる事業所は確かに少ないので、地域共生型社会に向けて、考えていかなければいけないと思っています。

——介護保険事業所では令和3年度から義務化されましたが、感染症や災害時における業務継続計画（BCP）（※3）の策定状況はいかがでしょう。

**渡部：**事業所ごとに一旦はBCPを作成しましたが、感染症に関しては実際に運用するとなると実態に合わなかったこともあり、見直しをすることとしています。災害に関しては、地域と連携した対応の

強化（※4）が求められていますが、当法人事業所としてはまだこれからの検討になります。地域には消防団もあるので、連携していければと思っています。

また、この施設は福祉避難所としての機能も担っており、施設の開所直前に東日本大震災が発生し、石巻市から介護が必要となる避難者を受け入れてもらえないかとの相談があり、福祉避難所として施設運営がスタートしました。受け入れた方の中には、介護認定を受けていない方も多く、受け入れをきっかけに申請された方もいて、受け入れた方の半数はそのまま長期入所という形になりました。当時の対応もあったため、福祉避難所としての受け入れに関して抵抗はないと感じています。

それから、一心苑さんとは災害協定を結んでおり、地震被害や土砂災害、火災など、どちらかが機能を失ったときには、お互いに利用者の受け入れを行うこととしています。



施設の夏祭りの様子

——ほかにも社会貢献としての取り組みはありますか。



**渡部：**施設内には多目的で利用できる地域交流室があり、コロナが落ち着いたら地域の方たちにもぜひ使ってもらえればと思っています。現在は介護福祉士実務者研修として場所の提供をしています。



特別養護老人ホーム万葉苑の苑庭

——地域のボランティアの方やお茶っこ会、いろいろな会議等でも利用できると、より地域の方も身近に感じてもらえますね。また、施設周辺の庭園は見ごたえありますね。

**渡部：**万葉苑の周りにある庭園を整備し、一般開放しています。7月から8月には紫陽花が綺麗に咲いているのが見られます。春には菜の花と桜も咲きますので、近所の方々が散歩に来てくれたり、サロン会の方たちがお花見会をしたりと、地域の方々には気軽に来てもらえる場所となっています。屋外なので感染症に関係なく来られるのがいいですね。

——施設の開放は防犯面を考えると難しい部分もあると思いますが、地域の方が来てくれることで監視の目が増えるのはいいですね。

**渡部：**コロナで人との交流が制限されて

おり、本当の終着点がどこになるのか不明です。今からが本当のウィズコロナなのかもしれませんが、早く収束してほしいです。

——北村地区はこの数年で介護の事業所が増え、地域の方にとって老後の安心につながっているのではないのでしょうか。

**渡部：**河南地区全体で事業所は増えていますね。利用者の方が地域の中で選択できるということは良いことだと思います。先程もお話ししましたが、同じ北村地区にある介護施設と協定などで連携をしていますので、利用者の方も安心して暮らせる環境となっていると思います。

年々、地元の方の利用者も増えて、地元にある施設として認知してもらえているのかと思います。

今後も地域と共に運営ができればと考えております。



※1. 特定機能

国内人材を確保することが困難な状況にある産業分野において、一定の専門性・技能を有する外国人を受け入れることを目的とする制度。

※2. 介護助手普及啓発事業

地域の就業希望者を「介護助手」として雇用し、これまで介護職員が行ってきた周辺業務(掃除や

配膳、ベッドメイクなど、直接的な介護は行わない業務)を担ってもらうことで、介護職員の業務負担の軽減や専門職化につなげる取り組み。

※3. 事業継続計画(BCP)

大地震等の自然災害、感染症のまん延、テロ等の事件、大事故、サプライチェーン(供給網)の途絶、突発的な経営環境の変化など不測の事態が発生しても、被害を最小限に抑えながら必要なサービスは継続し、休止したサービスは可能な限り短い時間で再開させることをどのように進めていくか、方針、体制、手順等を示した計画のこと。業務継続計画とも言う。

※4. 災害への地域と連携した対応の強化

災害への対応においては、地域との連携が不可欠であることを踏まえ、非常災害対策(計画策定、関係機関との連携体制の確保、避難等訓練の実施等)が求められる介護サービス事業者(通所系、短期入所系、特定、施設系)を対象に、小多機等の例を参考に、訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めなければならないこととする。

— インタビューを終えて —

主な施設・事業所は自然豊かな北村地区にあり、整備された庭園もあって、利用者の方にとっても職員の方にとっても落ち着ける環境と感じてきました。

施設や庭園を地域へ開放することで、住民にとっては身近な存在になり、施設入居者にとっても閉塞感がなく日々を暮らせるのではないかと思います。

北村地区にある社会福祉法人旭壽会さんとの相互連携のほか、障がい者雇用だけでなく、制度を活用した高齢者や外国人など新たな形での雇用など、社会福祉法人として率先して行うことが望ましいと思われることができていることに、安心と信頼を得られるものと感じました。

社会福祉法人の運営は、人材不足、安定した収益など、年々厳しくなっていると思いますが、それらの課題を一緒に乗り越えるため、共に頑張っていきたいと思ったインタビューになりました。